

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400360		
法人名	社会福祉法人 明生会		
事業所名	グループホーム悠		
所在地	福島県いわき市平赤井字一の町62番地の1		
自己評価作成日	2021.10/27	評価結果市町村受理日	令和4年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の基本理念である、利用者様が安心と尊厳を持って生活を営めるように支援させて頂いています ・残存能力を活かせる生活の場の提供、あるがままを受容する対応を心掛けております
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の半数以上が要介護5の現状の中、他の事業所で入居を断られた方々も積極的に受け入れ、基本理念に基づいたケアを実践している。「看取りケア」は日々のケアの延長線上にあり、決して特別なことではないという共通認識のもと、協力医との連携を密に、最期まで寄り添うケアを実現している。 2. 精神科病棟などで治療上身体拘束をされていた方が、入居後、拘束が必要のない生活を復権できた事例も少なくない。また、新規入居の際、協力医と検討を重ね、可能な限り精神薬処方を抑えて、全職員協働のもとで身体拘束を行わないケアを実践している。 3. 管理者は、職員の働きがいの高さが、利用者への質の高いケア提供につながるとの認識に基づき、月1回以上職員との面談(意見交換)の場を設け、業務及び労働環境の改善に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会福祉法人明生会の理念と当施設の基本理念を毎月のミーティングで唱和し、その趣旨を理解し実践につなげている	基本理念及び行動計画(8項目)を玄関と事務所に掲示するとともに、各職員に配布し、理解の促進を図っている。また、毎月のミーティングで唱和し、「今月は行動計画のどこに重点を置くか」を検討し、理念及び行動計画の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・子供避難の家に登録し、地域の子供たちに活用して頂けるようにしている。 ・駐車場を一部開放し、赤井中学校の保護者や生徒の送迎に活用してもらっている。 ・月に一度、地域のごみ拾いを行っている 	コロナ禍で多くの活動が制限される中、月1回の事業所近隣のゴミ拾いを継続している。利用者にも無理のない範囲で参加してもらい、地域との交流を図っている。事業所の駐車場を保護者による中学生の送迎のために一部開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響を考慮し、現在は実施していない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は新型コロナウイルスの影響を考慮し、現在は実施していない ・書面や電話での報告や意見交換を実施している 	コロナ禍により書面開催としている。職員会議で話し合った内容を、事故・ヒヤリハット、利用者の生活の様子、今後の予定などとしてまとめ、報告資料としている。運営推進会議の委員のほか、家族全員に発送し、共有化を図っている。法人本部と来年度の対面での開催を協議・検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	機会があるごとに相談しており、事業所の情報を提供している	介護度の変更申請や機会あるごとに、市担当課に出向き、報告・相談・情報交換をしている。特に新型コロナウイルス感染対策の相談や食毒液、マスクなどの物資支援とともに随時アドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関や中庭など自由に出入りできるようにしている ・利用者様の行為や行動を抑制しないケアをしている 	3ヶ月ごとの身体拘束廃止委員会に加え、毎月のミーティングで行動抑制をしないケアに取り組んでいる。また、スピーチロックに留意し、職員間で注意(指摘)し合える関係を構築している。玄関の施錠時間は、19時～翌朝の5時となっており、日中は施錠していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・勉強会を通して、虐待について職員全員が理解し実行に移しており、声掛けにも十分に注意を払っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・勉強会やミーティングの資料を各自が保管し、反芻してもらっている ・県や市からの資料なども回覧している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所契約時に十分説明し、理解と同意を頂いた上で契約を結んでいる ・ご家族の疑問や不安についてはその都度説明し、同意を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や電話、来園時などによってご意見を汲み取れるように努めている	利用者の近況を、小まめに家族へ電話連絡し、その際に意見等を聴取している。聴き取った要望や疑問を職員間で共有し、家族への迅速な対応(回答)に努めている。また、「〇〇へ行きたい」「〇〇を食べたい」という利用者の思いの実現に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや勤務時においても、職員の意見や提案に耳を傾けている	毎月のミーティングの他、管理者と職員が個別に話し合える機会を月1回以上設けている。介護職員の現場での気づきが管理者と共有され、利用者のケア向上に活かされている。管理者は職員が意見を出しやすい雰囲気や働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体の責任者会議において十分な話し合いの機会を設けており、各自の状況や実績に合わせた環境把握に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修委員会を設けており、毎月テーマを決めて実施し内容を回覧している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会などと連携を取り、交流を深めながらサービスの向上を図っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前に本人の生活歴や入所に至る経緯など、職員全員が理解し共有している ・利用前にご本人やご家族の要望を確認し、信頼関係の形成に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用時に何を必要とされているのかご本人とご家族から、しっかり話し合いを行い要望を見極めて、必要な支援を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用時に何を必要とされているのかご本人とご家族から、しっかり話し合いを行い要望を見極めて、必要な支援を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護するだけでなく、人生の先輩として敬う気持ちを忘れず、共に支え合う関係性の構築に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族が来園された時や電話にて、日々の暮らしの様子をお伝えしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・地域の散歩やドライブなどを通して慣れ親しんだ場所に出かける機会を設けている ・新型コロナウイルス対策の為、面会はガラス越しで実施させて頂いている	コロナ禍で制限される中、馴染みの場所へ出かけ、車窓からの風景を楽しむ機会を設けている。親族からの電話は子機を渡し、ゆっくりと会話できるように配慮している。家族とは、窓越し面会から11月以降事務室でアクリル板越しとなり、関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・相性の合う方同士がなるべく同じテーブルで過ごせるように配慮している ・利用者様がご自身のお気持ちをコミュニケーションでうまく表現できるような支援を心掛けている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動された方は電話などで近況を伺っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の生活の中でコミュニケーションを多く取れるように心がけ、利用者様の言葉や生活状況から想いや意向の把握に努めている ・確認が困難な方はご家族への聞き取りや、面会時の会話や表情などから汲み取っている	利用者の言葉や表情、家族からの情報から本人の思いや意向を推察し、ケアに活かしている。暴力行為などの問題行動が起きる要因を職員で検討し、協力医とも相談を重ね、できるだけ精神薬等での行動抑制を行わない利用者主体のケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の入居前の生活情報を把握し、使い慣れた家具などを持ってきていただくことにより、生活環境が著しく変化しないように配慮している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・利用者様個人個人の日々の過ごし方を把握し、変化がないかに気を配っている ・利用者様の残存能力の発見と維持に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月の職員ミーティングでモニタリングを行うと共に、日々の気づきなどの情報を共有している ・ご家族の意向や主治医からの意見も介護計画に取り入れている	介護計画は、利用者・家族からの希望を踏まえ、3ヶ月を目途に策定しているが、ニーズの変化に合わせて柔軟に期間や支援内容を見直している。毎月の職員ミーティングの他、毎日の申し送りを利用者の状況を報告し合い、会議でモニタリングをして、チーム全体で介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録、食事量、排泄回数を個別に記録し、職員全員が情報を共有できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人に対して日々の声掛けや行動把握でニーズを把握し、職員ミーティングや申し送りなどで情報を共有している ・ご家族は訪問時や電話などでお話ができる機会に把握できるよう心履けている 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のお店の活用や緊急時の対応をお願いしている ・コロナ禍の為、小学生の受け入れは出来ない状態だが子供避難の家の登録を行っている他、利用者様と近隣のごみ拾いを毎月実施している 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・医療連携を結んでいる医療機関より、月2回の往診を受けている ・利用者様の体調に不安がある場合には24時間相談可能な体制を構築している 	利用者全員が、24時間対応、月2回往診の協力医を希望し、往診後、家族へ電話で報告し、他科受診は、家族が同行している。協力医は、他科の処方薬を含めトータル的に管理し、訪問看護師は主治医と連携し健康を管理をしている。また、歯科は協力医の訪問診療を受け適切な医療支援を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーションと契約しており、週1回利用者さんの状況や相談などを行っている ・心配なことがある場合は、訪問看護師が医師に連絡し、対応していただいている 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時は定期的に面会に行くと共に、看護師や相談員との縁輪により情報交換をしている ・ご家族、主治医、看護師、相談員と話し合いを重ねながら、退院後の受け入れについても検討している 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・入所時に、看取りについてのご説明や重度化した場合のご家族の考えをお聞きしている ・心身状況の変化時は、ご家族・医師に報告しその都度対応について話し合っている ・ご本人やご家族の希望に沿った看取りケアに努めている 	入居時、重度化した場合における対応で説明し同意を得ている。その後、心身の変化に応じ主治医の診断により、看取り指針で終末期の看取り対応の意思を確認している。現在、家族はコロナ禍で宿泊できず日帰りで寄り添い、主治医・訪看・家族・職員が連携して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に心肺蘇生やAEDの使用方法を職員全員が学んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に自主避難訓練を実施している 施設で利用している燃料店に緊急時の協力を依頼しており、二次避難の場として同法人施設と連携を設けている 3日分の食料を備蓄している 	年間計画により総合避難訓練・水害・夜間想定火災訓練・消防署借用のレサシアンによるAED訓練等を実施している。水害時は地域が水害想定区のため早急に判断し、法人本部へ避難対応している。食料3日分を備蓄している。また、現在、BCP（業務継続計画）の作成に取り組んでおり、利用者の安全・安心に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の生活歴や性格、ご家族との関係性に配慮し利用者様に合った声掛け対応を行っている プライバシーについて職員全体で見直しを行い、共有できるように努めている 	利用者・家族から、生活歴や性格、好み等を丁寧に取り、会話は顔を見て目を合わせて話ををする等、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない対応に取り組んでいる。また、個人情報には鍵付きロッカーに保管し適正に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> 利用者様が選択しやすい声掛けを行い、意思表示が出来るように配慮している 自己決定が困難な利用者様には、表情やこれまでの趣味趣向を重んじて接している 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調や意向に配慮し、歩行訓練や散歩などの付き添いや会話を大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に外部の理容師が訪問し、ご本人の好みに合わせた髪形にいただいている ご本人の好みや季節に合った服装となるよう支援している 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 栄養士が旬の食材を取り入れたバランスの取れた献立を作成し、中庭で育てた野菜を利用者様と収穫し調理している 苦手な食べ物については調理を工夫したり、代替え品を提供している 	法人の栄養士作成の献立を活用し、食材は地域のスーパーで調達している。利用者は出来る範囲でテーブル拭き等を手伝っている。また、中庭で育てた夏野菜や量販店からの差し入れのカツオの薫焼き、職員が持参した季節の野菜等を取り入れ、季節感を味わいながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 口腔状態や残存能力に応じて、食材の固さを調節し食べやすい様に工夫して提供している 水分は摂取量を細かく記録し、確認しながら水分補給をしている 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態やご本人の残存能力を把握し、歯ブラシやスポンジブラシなど個別に応じたケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の状態に合わせて声掛け誘導を行い、トイレでの排泄を促しトイレの外で見守りながらの声掛けするなど羞恥心に配慮している	排泄は、状況に合わせて一人ひとりへ声掛け誘導している。現在、重度化している方が多く、安全面から2人体制で介助している。紙オムツからリハビリパンツへ改善した方や失禁しても布パンツを継続利用してもらう等、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排泄確認を行い、水分補給や体操、歩行訓練などで便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別の状態に応じた入浴介助を行い、季節湯を取り入れて四季を肌で感じていただけるように配慮している	入浴は、週3回以上とし、時間は午後としているが、失禁時は随時対応している。入浴を拒む利用者はいない。入浴時は、会話を楽しみ、ゆず湯・菖蒲湯・バラ湯等を取り入れながら季節感を味わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように配慮しつつ、居室で休む時間や一人で過ごされる時間を大切にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方箋をファイリングしており、必要性が生じた場合に職員全員がすぐに確認できるようにしている ・服薬は職員が利用者様のお名前と日付を確認してから手渡したり、服用確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・利用者様の残存能力で可能な役割を職員間で話し合い、お願いしている ・生け花教室や歌など趣味を楽しめるようにも支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・利用者様の当日の体調や天気を考慮しながら、ドライブや散歩などに出かけている ・季節に合った行事の提供を心掛けている	コロナ禍ため、地域の浜辺や紫陽花寺、紅葉の名勝地へのドライブに出かけている。また、中庭から風景を見ながらの昼食や冬季に中庭前に飛来する白鳥見物、周囲の散歩等で、利用者にストレスがたまらない様、気分転換をする取り組みをしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談のうえ、お金を持っていた方が安心される方のみ手元に少額所持している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご本人の希望に応じて、ご家族や知人に電話や手紙を出せるように支援している ・電話があったときは、個人情報に注意しながらご本人につないでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・施設内に温度計、湿度計が設置してあり常に気を配っている ・施設内の飾りつけも季節を感じられるようにしている	リビングに、利用者と共に作成した季節感のある貼り絵やカレンダーなどを掲示している。また、日中リビングで過ごす利用者が多く、温度・湿度等を職員が管理し、中庭を見ながらソファで休憩したり、うたた寝をする等居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室、ホールのソファ、それぞれのテーブル、ウッドデッキなど気の合う方同士で過ごせる空間づくりをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご本人やご家族と相談しながら、自宅で使用していた家具、寝具、写真などを持ってきていただき、その方らしい居心地の良い居室となるように配慮している	事業所では、居室はこれまでの生活の延長上との考えから、馴染みの家具を持参していただき、利用者・家族と相談しながら配置をしている。また、家族写真や自分で作成した塗り絵を飾る等、その人らしく暮らせる部屋となるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が安全に、残存能力を活かして生活できる環境作りに努めている		